

平成 29 年度第 3 回木更津市史編集委員会 会議録

1. 会議名 平成 29 年度第 3 回木更津市史編集委員会

2. 開催日時 平成 30 年 3 月 14 日（水）午後 3 時 00 分～午後 5 時 00 分

3. 開催場所 木更津市役所朝日庁舎 多目的室 B

4. 出席者 市史編集委員会委員 出席 7 名

杉山林継委員長、成田篤彦副委員長、川戸貴史委員、實形裕介委員、

石和田秀幸委員、谷畑美帆委員、石井良幸委員

木更津市史編集部会長 出席者 7 名

加藤修司部会長（考古）、河名 勉部会長（古代）、滝川恒昭部会長（中世）、

小関悠一郎部会長（近世）、池田 順部会長（近現代）、和田 健部会長（民俗）、

山田 真部会長（自然）

教育委員会事務局 5 名

高澤茂夫教育長、堀切由彦教育部長、岩埜伸二教育部次長、山口玲子文化課長、

小高幸男主幹

5. 議題及び公開又は非公開の別

議題 木更津市史編集部会組織の見直しについて（公開）

報告 1 『木更津市史編さんだより』第 2 号の発行（公開）

報告 2 平成 29 年度木更津市史編さん事業公開講座の実施（公開）

報告 3 『木更津市史研究』創刊号の発行予定（公開）

報告 4 『木更津市史編さん事業公開講座記録集』の発行予定（公開）

6. 傍聴人 なし

事務局（山口文化課長）

定刻となりましたので、ただ今より、第 3 回木更津市史編集委員会を開会いたします。本日の進行は山口が務めさせていただきます。よろしく願いいたします。本日の市史編集委員会は、池田委員並びに山口委員からご欠席の連絡がございましたのでご報告します。なお島立委員からはご連絡ございませんが遅れてきてくださるものと考えております。会議につきましては、附属機関設置条例第 6 条第 2 項の規定により成立しております。また、会議につきましては公開で行ないますのでご了承下さい。

本日は、市史編集部会の各部会長にもご出席いただいております。なお、民俗部会長の和田様も遅れてご出席くださる予定でございます。

はじめに、杉山委員長より、ご挨拶をお願いいたします。

杉山委員長 失礼ですが座ったまま挨拶させていただきます。お忙しい中、本日はお集まりいただきありがとうございます。今日は各部会長もご出席いただいて状況報告などしていただくことになっておりますので、案件といいますか、かなり内容は充実したものになると思いますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

事務局（山口文化課長）

ありがとうございました。続きまして、高澤教育長よりごあいさつ申し上げます。

高澤教育長 皆さんこんにちは。教育長の高澤でございます。早いもので 29 年度も残りわずかとなりましたけれども、今日は第 3 回の市史編集委員会に杉山委員長はじめ各委員の皆様には大変忙しい中、ご参加いただきまして大変ありがとうございます。また、今日は最後のまとめということもありますので各部会長の皆さんにも御足労いただきました。大変お忙しい中、ご参加いただきましてありがとうございます。

今日の議題につきましては、市史編さん事業の進捗状況についてということで、議題をあげさせていただいています。

この 1 年間、各部会を中心に活動をしていただきまして、その 1 年間の進捗状況、作業をする中で多くの課題とか懸案事項があるかと思ひますので、そういったものを踏まえてお話をいただければ有難いというように考えています。

とりわけ懸案事項につきましては、部会をまたぐような課題であったり、また刊行計画に関するような課題であったりと、市史編さん事業の全体に関わるような課題がありましたら、今日のこの場で遠慮なくお話しいただければ有難いと考へています。

ただ一つ一つについて委員の皆さんに細かなところまで議論いただくというところまではいかないのかなとは思ひますけれども、現在の各部会の活動状況といますか、現状把握を今日は皆さんにご理解いただければと考へています。よろしくお願ひをしたいと思います。

最後になりますが、委員の皆様また部会長の皆様、それぞれお仕事をもちながらお見えになって、大変なご苦勞をおかけしておりますが、引き続きお力添えを賜りますよう、切にお願ひ申し上げまして、冒頭の挨拶に代えさせていただきます。どうぞ今日はよろしくお願ひいたします。

事務局（山口文化課長）

ありがとうございました。会議に入る前に、資料確認をお願ひいたします。

【資料確認】

事務局（山口文化課長）

それでは、議事に入ります。議長は委員長が務めることとなっておりますので、ここからは杉山委員長にお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

杉山委員長　それでは、議長を務めさせていただきます。もう一度、説明を事務局お願いいたします。

事務局（小高主幹）

「木更津市史編さん事業進捗状況について」という議題についてご説明いたします。はじめに、各部会長の皆様から本年度の活動報告について杉山議長の進行のもと資料をご参照いただきながら説明をお願いします。併せて来年度の活動計画について説明をお願いします。部会長の皆様全員の説明が終わりましたら、編集委員の皆様から各部会長又は事務局への質問をお願いします。また来年度の計画について、別紙に木更津市史刊行計画等を載せております。これも参考に質問等ありましたらお願いしたいと存じます。私からは以上です。

杉山委員長　委員の皆様には、各部会の説明が全部終わってから、質問をお願いします。それでは、はじめに考古部会からよろしくをお願いしたいと思います。

加藤考古部会長

考古部会長の加藤と申します。よろしくをお願いいたします。この後、6部会あるということですので、手短に要点のみ説明させていただきます。

ご承知のとおり、昭和40年代後半から大量の考古遺物が開発の発掘調査に伴って、私の予想ですと数万点にも及ぶ遺物量があるんじゃないかと。それを木更津市史の「史料編」と「通史編」の中でどうやって紹介していくか。考古部会が最初に考えたのは、「史料編」と「通史編」の色分けをきちっとしよう。ただし、「史料編」の中で数万点を全て網羅するというのも不可能である。膨大な量の貴重な歴史資料でございますので、ある程度「史料編」では集成を主眼にすると。「通史編」は、木更津市の歴史という形の中での考古資料という形を確認いたしました。

骨子につきましては、そこに書いてあるとおり、木更津市内の色々なところに報告書類、それから遺物類、写真、図版そういったものが存在しております。先ずその所在を確認して、どういう状況でどのくらい報告書があって、どういう状況になっているかを確認することも大変な作業でございました。

私はたまたま弥生時代を担当しているんですけども、弥生の遺跡だけでも恐らく数百はあるであろうと。それぞれが全て本になっております。その本は全てアナログデータですので、このアナログデータをどうやってデジタル化するか。

これは考えただけでもちょっと気が遠くなるんですけども、全て製本されておりますので、そこから例えば竪穴住居跡のデータを取り出すということになりますと全て再スキャンしなければならぬ。そういったことを考えていきますと、果たしてどの程度の時間がかかってどこまでやってよいかという不安材料が出てきたわけでございます。しかし、そうは言ってもある程度デジタルデータ化を進めていこうという確認を、今年度、各担当者の中でやっております。

併せて、「考古編」の場合は遺跡地図というのが重要視されております。遺跡地図というのは、千葉県教育委員会の中でもきちっとした法的な遺跡地図が出されています。これに準拠した形で、木更津市もデジタルの遺跡地図を作って、広く市民の皆様もそれを自分の住んでいるところが何遺跡だったかということがパソコン上で見られるようなことをすべきでないか。ということで、現在、国土地理院のデータをデジタル化して、私のほうでいろんなソフトを駆使しながらA1サイズもしくはA0サイズにも耐えられるような、その位の大きさのデータをです。そうしますと、かなりの精度で家一軒一軒くらいまで見えちゃうような、その位精緻なデジタル地図が今はできるんです。まあここまで細かくなくても、良質な遺跡地図を作ろうということで、今年度は活動しております。

来年度につきましては、更にそれらを具体化いたしまして、例えば、旧石器時代ではどの位の遺跡をスキャンしてどういうデータを出すのか、具体的に雛形を作っていくまして、その為には、例えば石器一つ一つを再トレースするのか、スキャンで済むのか、あるいは担当が再実測するのか。その辺も含めまして、力量を計算して、先ほど事務局からありました調査員の方々の協力を得ざるを得ない。そういった中で具体的なデジタルデータを集めています。そういった意味で、大変な力量がかかるわけではございますけれども、より具体的なデータ作業につきまして、来年度は進めていきたいなと思っております。

「考古編」は、基本的には「史料編」をまず編さんして、この辺は事務局のほうでどういう方針なのか私もはっきりとは言えないんですけども、「史料編」と「考古編」を並行して作っていくということになるんですけども、基本的には「史料編」を先ずそろえていくのが「考古編」のやり方でありまして、他の部会がどういうやり方をとっているのかは今日確認したいと思っております。個々の細かな解説は、この後、委員の先生方から質問を受けるということで、基本的な方針ということで、考古部会からは以上とさせていただきます。

杉山委員長 ありがとうございました。「考古編」の「史料編」、いずれにしても、平成42年度位まで続くものでありますので、非常に先の長いことでもあります。「通史編」

とともに長期にわたる。それからもう一つは今からお話しいただくような古代部会、中世部会などともかぶってくることもあるかもしれませんので、そこらへんも是非よろしくお話ししたいと思います。では次に、古代部会、お願いします。

河名古代部会長

古代部会の河名と申します。よろしくお話しいたします。千葉県における古代史料については、ご存知のように 20 年位前に千葉県史の「史料編古代」というのが編さんされております。それに私も多少関わりましたが、千葉県史の「古代史料編」というのは、年月が約 7 年数ヶ月かかっています。それでスタッフが部会長、専門委員、調査執筆委員、嘱託、プラスアルバイト 10 人プラスアルファで作ったものです。

そして、総捲り作業で文献を全部捲る作業を、あらゆる作業をしていて、一応基礎データとすれば、編年史料目録で約 4279 点採録しています。ところが件数が多いので、更に絞って、上総、下総、安房を限定的にして絞り込んだ 1774 点が「史料編古代」です。そういうような成果があって、いざ「木更津市史」が「史料編」「通史古代編」をどのように作るかということ、やはりスタッフが発足の時点では 3 人。3 人で県史と同じ作業はできかねるというところで、その基礎データを私は持っておりますので、それを踏まえて、順序は入れ替わるけれども、作成した資料にも書いてありますが、2 年目から 5 年目の作業のところにも入りますが、いわゆる県史の場合は総捲り作業をして、採録資料を出して、それから絞り込んで凡例に基づいて作業をしています。ただし、3 人ではそれは不可能なので、千葉県史の作業の成果を踏まえて、上総の国、あるいは畔蒜郡あるいは望陀郡あるいは北の海上郡、市原郡、南の天羽・周淮郡、少なくともそれは採録しようというように絞り込んで採録候補を確定します。それから原典に当たりながら検討作業をして、採録範囲とか、再準備に時間をかけてやろうと。そういうように、第 1 回目に共通理解を得まして、その後、月に 1 回やります。5 月からスタートいたしまして、3 月で 11 回をやりますが、採録史料の選択作業がほぼ 1 年で終わる予定です。その結果は概ね、750 点くらいが候補にあがっていますので、来年以降はそれを検討する作業に入ります。

この場でお願いしたいのは、現在の課題点ですけれども、「史料編」には墨書土器というものが含まれ、「千葉県史」の場合には、古代部会の中の考古学担当の方が墨書土器を担当しました。それに倣うと、考古部会が担当でよいのかどうか検討したい。

それから中世との関係は、年代を、1179 年までを古代、1180 年から中世で良

いのか。これは「千葉県史」と近辺の「袖ヶ浦市史」もこの年代で区分していて、これでよいのかを2点目に確認したい。

3点目は本の体裁についてです。現在、「千葉県史」を踏襲して編年史料についてはA4版2段組注をつけることで進めていますけれども、中世の場合には「袖ヶ浦市史」を見ますと、別個の体系でやっていますので、それでよいのか。そういうようなことを検討願えればということです。

4点目は、素朴な疑問ですが、資料の最後のほうに刊行計画がありますけれども、おそらく、「考古編」の「史料編」に合わせているんでしょうけれども、この「史料編」が「古代編」、「中世編」が出た後、「通史編」は「原始古代」でやって間が5年位空いているけれども、この5年の空きというのは作業を進めるうえで支障をきたさないかという点。刊行計画については、平成42年に10冊刊行になっていますが、これは厳しいのではないかという点。

最後に、古代部会の主たるメンバーは、もう定年を迎えている人たちです。それが、間に5年「通史編」があって、それからスタートするとちょっと人的にも非常に年齢的にも難しい部分があるので、この5年というのを早期に変更は可能なのかというのを改めて検討して欲しい。普通ならば「原始古代編」が出て「中世編」、「近世編」と刊行していくのが望ましいのではないかと思うけど、この計画では最後に出る。そういうような素朴な疑問がでてるので、検討願えればと思います。以上です。

杉山委員長 ありがとうございます。全体に関わる問題、あるいは部会間の問題等ありますので、またいずれ編集委員会委員の方々にご質問いただくとして、とりあえずお聞きしておきたいと思います。次に中世部会、よろしくお願いします。

滝川中世部会長

中世部会の滝川と申します。よろしく申し上げます。進捗状況とのことですので、本年度、中世部会が始まり、6月に初めての会合がありまして、中世部会として、どういう市史が市民の方に期待されているのかという観点で、収録史料はどんなものがよいかということを皆で意見を交わしました。そして、市内にある中世史料ですとか、中世木更津の収集史料はもちろんですけれども、特色を持たせるためには、市民の方が非常に興味をもたれている上総武田氏の関係資料を網羅的に集めようとか。それと木更津と言いますと、このあたりは中世では上総鋳物師の根拠地がありましたので、上総鋳物師関係の史料を集めるとか。あと、木更津といたら何ととっても近世にいたるまで江戸湾交通ですが、これは中世でも非常に盛んだったということですので、中世の江戸湾交通。こういったものに

ついてみていこうと。そういうような観点での史料収集方針を決めました。ただ、中世の場合は非常に史料の点数が限られておりまして、それ故に、史料は網羅的に集めなきゃいけない。その為には、全国を視野に集める位のことでやりたいと。その点を是非ご理解いただきたいと考えております。

一応、私達はメンバーを中世の前期、中世の中期、前期は鎌倉と南北朝、中期は室町と戦国というような土台に一応分けまして、それぞれで動いていこうというところでやっております。

実を言いますと、木更津についても市内の史料、そういったものの基礎データがないので、苦勞しているところですが、とりあえず出来る所から始めようというところで動いています。

今年度は、できれば市内調査と並行して県外にもいきたいと考えています。ごく最近ですが、高野山に今まで全く知られていない未紹介の鏝阿帳（ばんなちょう）があるということがはっきりわかりました。上総関係のものがたくさん出てきていると。そういったものを調査して木更津市史で出すことができれば、これは木更津だけじゃなくて全国的にも注目されるような史料になると思っています。以上です。

杉山委員長　　ありがとうございました。続きまして、近世部会、よろしくお願ひします。

小関近世部会長

小関です。よろしくお願ひします。近世部会は、市内の旧家などに残る古文書などの史料をこの機会に可能な限り一軒一軒当たって、どれ位の史料が市内に残されているのか。古文書類の悉皆調査を大まかには地区ごとに行なって、市史の材料とする史料がどの位残されているのかを把握するところからはじめています。金田などいくつかの地区では、おおまかにはこれ位の史料があるのかなというのを把握できたところもある一方で、ややばらつきもあって、もっと沢山あるかもしれないというのもありまして、個々の旧家なども当たり新出の史料も含めて情報を把握しているところです。中々、部会委員も仕事の合間ということもありまして、旧家を訪れるまでに時間がかかりまして、まだまだ調査の作業が必要などころで、その辺りが課題になっています。

それから当初の刊行計画では地区ごとに「史料編」を作るというような話で伺っていたんですけども、地区別だと薄い厚いがあって難しいのでその辺り見直しが必要かと考えております。今年度、調査の状況を見ながら近世部会で詰めていきたいと考えています。

懸案事項では、各部会の兼任の部会委員から、少し戸惑いもあるという声もあ

りましたので、それもお伝えします。とりあえず以上です。

杉山委員長 ありがとうございます。近世になると色々と史料も多いことかと思しますので、大変だと思います。それでは続けて、近現代部会、お願いします。

池田近現代部会長

近現代部会の池田です。よろしく申し上げます。近現代部会が一番史料は沢山あると思います。大体、週 1・2 回位のペースで、史料の調査・収集を行っています。それで、これまでどういう調査、収集を行ってきたのか。これからどういった調査を行うのかというと、まず第 1 点は、行政文書です。これに関しては、現在までに鎌足、中郷、金田、富岡の 4 つの旧村の行政文書調査は終わりました。しかし、実は潮見の旧庁舎の倉庫に木更津町、それから木更津市の大量の、段ボール箱にして 100 箱以上にも上る史料が残ってしまっていて、これは調査、史料の選定にかなり時間がかかることが想定されまして、我々としてもできるだけ早く着手したいということを現在、希望しております。

2 点目は、旧家の家文書です。これについては、現在、4 件位調査が終わったところもありますし、途中であるところもあります。それから、まだ調査に着手していませんけれども、史料調査の了解を得たお宅も数件ございます。家文書の調査、これは近世部会と一緒に調査をしていきたいと考えております。

3 点目に教育関係の史料ですが、今まで調査をしたのは木更津市と金田小学校に関する調査です。それから、千葉県文書館に総合教育センターから移管された史料について調査もやっています。これは木更津市立の古い小学校、歴史を持った小学校が中心となってきますが、小学校 1 校 1 校の史料の調査を行ないたいと考えています。

4 点目が聴き取り調査です。これは、近現代の場合は、特に戦時中から戦後にかけていろんな体験をした方々、かなり高齢な方々が多いわけですが、そうした方々の聴き取り調査をこれまで 10 人位やりました。それは録音しましたし、録音したものを文書化してもらっています。これは、ある意味では時間との勝負だと思います。やっていかなければならないと思っています。

それから、フィールドワークもやはり継続してやっています。特に近現代ですと、戦争遺跡と言いますか、つまり戦時中の施設がどこにあったのかということもあわせて調査をしています。ゆくゆくは、戦争遺跡のマップ、地図みたいなものを作れたらいいなと考えています。

これからの課題で一番気になっているのは、産業経済に関する分野の史料が中々収集ができていないことでありまして、特に漁業関係、漁業組合の関係の史

料をこれから、集めていかななくてはいけないと思っています。

刊行計画ですが、近現代は「史料編」を2冊出す予定です。これについて、少し申し立てたいことがありますので、後でお話させていただければと思います。

杉山委員長 わかりました。出版の刊行の順番だとか年数とかその辺の問題は、たぶん別個にもう一回考えないといけないかもしれませんので、とりあえずはお聞きするということにしたいと思います。ありがとうございました。

それでは続けて、民俗部会のほうよろしくお願ひしたいと思います。

和田民俗部会長

民俗部会の和田です、どうぞよろしくお願ひいたします。平成29年4月から12月まで、民俗部会全体としてはどういう調査の仕方をするかというようなことを考えたとき、初手としては祭礼に関わるものから入っていきながらそれから横断的に広めていこうということで、部会全体で動いていこうと考えております。その中で、桜井地区の諏訪神社例大祭の獅子舞に関する調査。民俗部会のメンバーであります田村部会委員が中心になって、今までの先生の蓄積もございまして、まだ網羅していないところを取材調査していただき、情報収集しました。

それから、金田地区の梵天立ての観察と記録ということで、金田地区は近々の刊行計画の中に入っていますが、皆様もご存知のようにと言いましょか、金田地区は激変しております。激変しているところをどのような捉え方をして報告書、あるいは民俗史に近いものとして市史の中で描くかというのは、もう少し議論を深めないといけないというところがございます。どういう刊行計画、調査方針でというのは、もう少し部会の中で練り直しがいるかなというのがございます。それは島立委員（市史編集委員会）が中心となって組織だつてやりたいというところがございます。ただこの梵天立てに関しては、かなり以前からの調査データがございます。もちろんそれは、いわゆる緊急調査のような全体をとるような調査だったんですけど、ここをトピックにしながら金田の大きな変化というものをごどのように把握するのか。色々グループの中で共有する限りにおいては、漁港の問題と海苔の問題。海苔も本当に10年で激変しています。海苔の漁師さんも仕事のあり方が変わってきているということもあって、どう見直そうかということや、これは全く未着手ですけど、両檀家。男性と女性で信徒が違う。檀那部屋が違うっていうような事例が非常に多く見かける。これは、モラル的には金田でやったほうがいいかということで断片的には集めております。2割程度という書き方をしましたが、これはご寛恕賜りたいんですけど、全体の書き方、方針が定まった時に一気に進むというふうにご理解いただいて、データとしてはもっと

得られると考えております。私のほうも断続的にですけど、その方針でいったほうが良いと思っています。

それから、木更津地区の八劔八幡神社の祭礼組織および祭礼のうえに関わる聴き取りや祭員観察。これは8割程度調査済みとしましたが、今年度は木更津地区の、いわゆる街なかのあり方をどう見ようかということで、非常に街なかというのは、木更津市に限らずどこも大きく変わるところがございます。その中で確固たる組織としてあるとなったときに、お寺を中心とした檀家組織と、氏子組織であろうということで、氏子組織の中の総代会の繋がり。それと町会のあり方。それから祭礼そのものの関係ということをも軸にしながら、放射線状に旧木更津町地区の町並みというものを捉える調査をいたしました。こちらは8割程度と書きましたが、残りの2割が大変だろうと思っています。実はこれをきちんと縦糸で結んでいかなければならないところがあります。来年度、大きく調査報告書に関連する形で木更津地区の報告の刊行計画、大変厳しいですけども、その辺りは射程に入れてやっていきたいと考えています。

町会の運営、あるいは社会組織に関すること。これについても5割程度は調査済みですが、沢山ある旧木更津地区の町会全部を回することは難しいです。全部を抑えなければいけないところもありますし、ここの調査方針、取材方針を固めたいというのがございます。これが12月までです。

1月から3月まで調査予定で、私も仕事で中々全体の調査を動かすということができませんでしたが、いくつかトピックは整理してございます。7月8月の祭礼調査の中で得たものの延長上の調査をしていこうと定めております。例えば、祭礼の最初に巫女さんが舞をしますけれど、舞をする組織がどのようになっているのかは、巫女さんのお母さんの頑張りが結構大きかったりします。民俗調査は、古いことを調査することもあります。新たな祭礼の運営のあり方で、今の若いお母さんがどう考えているのか。これをトピックで考えておまして、それを調査したいと思っています。これは3月までということは難しいかなと思っています。それから木更津地区の説話、伝説に関わる調査は、これは入江部会委員が3月に調査に入られる。もともとは口承文芸の専門の研究の方です。私は口承文芸そのものを集めるような取材調査は余りないので、ある程度毛色をあわせて、パターンを拓けてもらうような聴き取りをやっていただこうと考えております。

それから、金田地区の地理的状況マッピングを広くする活動をする。ここが実は先ほどの金田の激変をどう書こうか悩ましいところですが、やらなければいけないと思っています。道路も幹線道路が通って旧集落の一部の道路が残っており

ますが、おかしな形で道が出来上がっている印象がございます。それをマッピングしていく作業を地理学の御専門の先生。これは中央博物館の佐山部会委員ですけど、あとは私のほうの大学の工学研究院の先生と関わりながら進めていこうと考えています。

活動計画と調査計画ということで、3割程度ということで、後で申し上げますが、決定的に組織立った調査が今年度はできなかったのは非常に大きな反省に思っております。唯一と言ってはなんですが、八劔八幡神社の祭礼だけは、べたで、複数のメンバーで押さえて行ったということができましたが、やはり個人の調査と複数のチームで組んでやる取材調査っていうのがございますが、そこがやっぱり足りなかったということが、来年度、本腰入れて考えないといけないと思っております。これは後で申し上げますけれど、会議資料に書いてないものでここに一部書き入れましたが、断続的に取材調査になってしまうけれど、継続的に真の資料をみながら部会を横断してやり取りができるという仕組みがあるといいなと思っております。私も十数年前に別の市史でお仕事させていただきましたが、そこは大学院の修士以下位の学生が全体を見渡せるような嘱託で入っていて、部会を横断するような連携の勉強会っていうのをやっていたという記憶がございます。やっぱり、そういうのは必要かなとすごく思っております。これもまた、部会の先生方からも御意見いただければと思います。

これまでの取組みに係る課題点と懸案事項ですが、もう今既にかなり喋っております。金田地区の漁業関係ですとか、民俗関係の調査は、来年度集中的に行いたいということと、市民のライフストーリーをベースにした聴き取り調査が充分ではない。今後集中的に行いたい。これは木更津地区の刊行を見据えて私なりに考えていることです。というのは、祭礼調査は組織立って調査して、そのデータをどのように繋いでいくか、報告書は積上げていきますが、その個人の人生、木更津で生まれ育って現在に至るまでの、その人の語りを主にして町の変化を見ていくという、いわゆる聴き語りというのがあります。ライフストーリーは社会学の調査でよくございますが、そちらを何かしら入れていきたいなと思っております。これは、「福岡市史」の民俗編で、ある商店街の個人の商店のライフストーリーを一つ編み上げたという、繋いでいったというのが、秀作だと思いました。ただ、個人情報の問題もありますので難しいですけど、やはり、人を対象にした聴き取りをどう報告書のなかに入れていくかは、考えていきたいと思っております。

それから、これも本当は私のほうから近世部会や近現代部会の方々とお話ししなければいけないことですけど、神社関係の調査は近世部会との調整必要にな

りますし、近現代でもそうかと思えます。そのあたりは、部会を超えた形で必要かと思っています。石造物の調査に関しては既存の調査資料が何かしらございますが、その活用のあり方は部会を横断して連携していきたいと思っています。

平成 30 年度の活動計画ですが、木更津、金田地区を中心に引き続きやっていきます。平成 31 年度が木更津地区の報告書の刊行予定です。その後が金田地区です。木更津地区においては、神社に関わる信仰と組織の調査を中心にしながら、菅根委員が全体的に網羅されていますので、獅子舞やお囃子の実態調査の修正をしていきたい。金田地区に関しては先ほど挙げた漁業を中心にみていきたい。ただ木更津のほうも、片町や仲片町などの魚を通じた生業というか、商売のあり方というのはトピックですので、そこも拡げたい。ただ、マンパワーが足りないと思っています。

先ほどあげました工学研究院の植田教授の研究室のほうで、観光協会と一緒に観光資源の活用を目指した調査というのをされています。植田先生と協働しながら民俗部会で民俗文化マッピングをやっていければと思っています。

木更津地区は田村委員と詰めてはいますけれど、かっちり目次構成を作って、ここは抑えるべきだっていう調査や、行える調査は進めていこうと話しております。連動して、来年度やるのが執筆に繋がると考えております。

以上が資料 1 の報告です。私のほうで考えている問題点は 3 点ほどです。1 点目は、チーム調査が進んでいないところが非常に、民俗部会としては恥ずかしいことですが、決定的な作業の遅延につながっていると。私の所属している学校が国際教養で、歴史系のプロパーの学生というか、そういうトレーニングを受けた学生というのが余りいないというところもあります。今年度は文学部と人文社会学研究院の大学院の学生にサポートしてもらいましたが、チーム調査をどうするかということが、来年度の大きな課題だと思っています。

2 点目は、刊行計画でひとまずは 31 年度木更津地区、その次は金田地区とありますが、やりくりの中で山の地区を先にやるべきというようなことも話では出ております。やはり、そちらのほうを後にして何もしないというのはどうだろうか。何かいい方法はないかということは部会の中では話はしております。もちろん刊行計画を変えるところまで提案はできませんけれど、当初の刊行計画通りだとかなり先になってしまう。こういうのは無くなってしまうものも結構あるのではないかなというところが懸念で出ています。

3 点目は、何度か申し上げてはいますが、部会横断の作業ということ、来年度は積極的に他の部会委員の方々に色々と教えていただいていたほうがい

いだらうと思っております。そういう意味で部会横断、それに関連させて、いわゆる専門研究のトレーニングを受けた嘱託のような方がいるといいなと思っております。その3点が報告書の中には書いていないことですが、今感じているところです。以上です。

杉山委員長　　ありがとうございました。民俗のほうを聞いていると、一番進んでいるように聞こえてきました。次に自然部会の山田さん恐れ入ります。

山田自然部会長

自然部会の山田です。よろしくお願ひします。自然部会は、まだまとまったデータとか無いものですから、実際の活動は主に現地調査。フィールドワークをやっています。内容から、およそ4つの分野に分けてお話ししたいと思います。

まず環境分野ですが、主に河川、湖沼、それから海岸等の変遷、水質、底生生物を主に調査しております。報告内容には、ところによって8割とか7割とか5割とか書いてありますけれども、環境分野は湯谷部会委員がやっています。幸いに学生を使って調査が出来る状況なので、お一人で結構データが集まっています。今後は、盤洲干潟の変遷をたどってやっていきたいと思ひます。

地学は、篠崎部会委員1人でやっております。ただ、この篠崎部会委員は昔からいらっしゃる方で、既に結構データを持っていらっしゃいます。そこに現地調査で加えて、「資料編」「本編」の原稿を既に作っていらっしゃいます。問題は、地層の下層のほうは何とか崖を見つければわかります。しかし上層のほうは宅地開発されてしまっているところが多くて、清見台とか、そういうところは見ることができない。というようなところが結構あって、下層に関しては、概ね調査が終わっています。

動物ですが、3名の部会委員が担当してまして、現地を歩いて、確認できたもののリストを作成しています。その分類が大体6~7割行っています。結構大変なのが昆虫とか種類が多くて、また分類が難しい。魚は、昆虫に比べれば少ないですから、概ね7割の種類は出来ていると思ひます。新しい種類はほとんど出てきません。今現在は、リストあるいは分布図の作成をやっています。

植物に関しては、県立中央博物館が木更津市内でメッシュ調査をやっておりまして、これは大体5~6割程度進んでおります。それに（合同調査として）参加して、植物リストを作っているところです。ただ、中央博の調査は、原則として1メッシュ一回だけです。つまり動物にしても植物にしても、季節が変わればずいぶん変わります。ですから、一回そこをやったから、例えばたまたま3月にここをやったからもうそこは終わりだっという印がついちゃうけど、ほかの季節に

行けばまた違うようになります。なるべくそういったところも拾っていかうということで、まだまだ未調査の部分も多いですが、植物のメンバーであっております。

それで貴重な植物が、実は太田山公園にもありますが、公表してしまうと無くなってしまう可能性があるので、公表はしないほうがいいなと思っています。その辺は植物に関しては難しいですね。色々貴重なものがありましたというように鷹揚的に判るようになってしまうと、次行ったら無くなっているってことが往々にしてある。要は現地調査がメインであるということと、季節を変えて調査しなければいけないということで、なかなか手が足りないというか、時間が足りないということが現状です。

文献調査に関しては、木更津や県の図書館所蔵、それから千葉県生物関係文献リストがございまして、木更津関連のものを抜き出して、更に調査するということを行っております。文献調査等から種リストを作成することになると先の話になる、テーマになってくると思います。以上になります。

杉山委員長 ありがとうございます。各部会の部会長から色々とお話しをいただきました。現状、それから今後の問題、更には場合によっては組織上の、部会間の調整。あるいは市史の発行年月。最初の「史料編」は、例えば「近世編」の1が平成32年度、民俗編の「木更津地区調査報告書」が平成31年度、「清川地区」が平成32年度というように、執筆のことを考えての刊行計画だと思いますので、比較的早く計画されているところは、まもなく執筆に向けてやっていただくことになるかと思えます。

そういうことを含めて、問題は、今年度についても色々問題がでてくるかと思えます。今、各部会長の方々からのお話がありましたが、私がお話をするのはおかしいのですが、どこでも、市史、県史、その他の歴史書を作ろうとすると、まだまだやりたいというのが沢山出てきますが、ある段階で切っていかなければならないということもあります。ですから、この年度で切って纏められるものというような言い方になるかと思えます。木更津の場合、今度のもので、ここで纏めるという点を承知していただきたいと思えます。

編集委員の先生方、各部会からの報告に対して質問は如何ですか。編集委員から質問をいただいて、それから各部会にお願いします。あるいは全体的なことでも結構です。部会長の中で話し足りなかった部分があればお願いします。

滝川中世部会長

はい。部会それぞれが話すと長くなると思うので極めて短時間でやりましたが、

中世も沢山問題点は抱えております。ただ、これは中世だけではなくて全体に関わることだと思っておりますが、(編さん事業が) 終わった後どうするのか。市史(事務局)のほうでどういうふうにお考えなのかということです。というのは、得てしてこういうものが出た後は、成果物が出た後は何も残っていないというようなことが多いわけです。それで例えば中世ですと、ある市史を見て、このバックデータを確認したいと思っても、そういうものが無い。要するに市にもない、どこにも無い。結局、確かめるものが無い。第三者が検証することができない。それじゃやっぱりまずいと思うんですよね。ですから是非、市史の成果をどのような形で市に集積して、そしてそれを遺産として残すのか。そういったことを考えていただきたい。そのためには、例えば、編さん室や専用の部屋を作るなりとか、そのようなことを考えていただかないと、ちょっと困ると思います。

中世の場合、色々なところに調査に行き、その調査資料のデータを取りまして、そして写真を撮る。次行った時には無いかもしれないということがあるわけです。ですから、そういったものを個人で持つのではなくて、個人はその控えを持っていて、やっぱりそれが一番重要なものだと思います。それを、是非、市のほうで保管しておいてもらいたい。そんな形で出来ないものかなということを要求したいと思います。

杉山委員長 ありがとうございます。中世の滝川部会長からありましたが、電子データ、その他の問題、それをどこへどう保存して、どう活用するかというようなことも含めて、各部会でもそういう考え方は色々あると思いますが、これは最終的には、編集委員会をお願いして、事務局と言いますか市のほうへ要望していくしかないかとは思っています。とりあえず、現在のところはそういう問題があるということで委員会のほうへ引き継ぐということによろしいかと思いますが。他に何かありますか。

池田近現代部会長

刊行計画のことですが、先ほど言わなかったんですけども、近現代に関しては「史料編」1と2の2巻出すことになっていまして、この計画ですと平成32年度に木更津、清川、金田、波岡、真舟。37年度に岩根、中郷、鎌足、富来田。以前、部会員全体で集まった時に近現代部会として要望したことは、地区を基準にした構成は、少なくとも近現代に関する「史料編」の編集にはちょっと馴染まない。近現代に関して言えば、やはり「通史編」の構成に沿った形で、例えば政治・行政、産業・経済、社会・教育文化といったような分野ごとに史料を出して、全体として近現代木更津の歩みを展望できるような、見通すことが出来るような方法

が望ましいのではないかということをご提案しました。ですからこうした地区ごとの編成ではなくて、「通史編」に沿った、つまり年代ごと、年代順に沿った編成にしてほしいということをご要請しました。

今のことは刊行計画にも関わってきまして、先ほど少しお話しがありましたけれども、1巻と2巻の間が5年間あいております。これはおそらく、第1巻はこの5地区を5年間かけてやって、次の5年間で残り4地区というようなスケジュール。そういう計画の下で立てられたものだと思います。今私がお話ししたように、年代に沿った形で1巻と2巻を構成していく、年代に沿った資料構成をしていくなれば、実は1巻と2巻というのはそんな間をあける必要はないわけです。2年、場合によっては1年でも構わない。というのは、行政文書にしても、家文書にしても、明治の史料が出てくれば戦後の史料も一緒に出てくるわけです。今もそうですけれども、この1・2巻にあたる部分は並行して調査と史料収集もすれば、掲載する史料の候補に当たるような選定もする。これを並行してやっているわけですから、1・2巻の間は短い期間で充分です。

我々の希望としては、木更津で、例えば「史料編」の「近現代編」の2が平成37年度でもいいですが、1は後ろにしてほしい。例えば平成35年度とかです。その分、先ほど市役所旧庁舎にある大量の木更津市の行政文書は、まだ全然着手してないと話をしましたけれど、これはかなり時間の係る作業ですから、もし仮に平成32年度に出すのであれば、もう毎年度、平成30年度には掲載資料を確定しなければ、筆耕とか、解題といったような作業を考えると、とても無理です。毎年度やっていかないと。

調査は精力的にやっていますけれど、それでも大量の史料の調査、収集はまだまだ不十分です。できれば1巻の刊行は後ろにずらしてほしい。32年度から35年度、場合によっては36年度とか。そうしたことを、近現代部会として要請したいと考えています。

杉山委員長　この刊行計画は、かなり早くから出来ていたもので、予算上の配分等についても関係してくるものだと思います。ただ、各部会からそのような希望、それから内容については部会のそういう考え方を編集委員会にあげていただければ、かなり対応できると思います。それから、例えば政治の問題、産業の問題というような分け方をしていこうと。地区ではなくてということは、部会のほうの考え方でかなり対応できると思います。発刊計画につきましても、これは予算上の問題等の絡みがありますので事務局側と折衝しないと中々難しい点もあるかもしれません。それならこっちを先に出してくれとか、言わないといけないかもしれません。

ん。その辺の問題も含めて考えていかなければいけないだろうと思います。基本的には、皆さんの意見をお聞きして、事務局との折衝になるかだと思います。そのようなことで如何でしょうか。

杉山委員長 近世部会はいかがですか。

小関近世部会長

地区ごとにまとめるとなると、史料が各地区からふんだんに出てきている状態でしたら出来るかも知れませんが、地区によって沢山残っているところ、出てきそうなところとそうでないところとあります。波岡だと、今のところ見つかっているものはほとんど無いので厳しいところがあります。近世部会も同様な課題を持っています。

杉山委員長 近世部会からも意見がありました。中世部会はいかがですか。

滝川中世部会長

今年の6月に初めて集まり、この刊行計画を見て、一様にこれでは絶対に無理だと。是非、見直してほしいということです。「史料編」にどういうものを掲載しようかということをおげますと何年もかかるような案件で、例えば、前回（昭和47年3月）の「木更津市史」の中世部分は、本当にちょっとの部分だけです。大体、昭和40年代に作られた市史、自治体史の類に中世はほとんど載ってない。それは地元に残っている史料が少ないこともありますが、探していなかったということもあります。ですが、今はそうではなくて、全国的にみてやっていくのが主流です。今回の木更津市の中世は非常に重要なところですので、是非充実した内容にしたいと思います。そのためには、少し時間をいただかないと無理かなと思っています。

杉山委員長 これは事務局側には大変頭の痛い問題だろうと思います。（市史編さんは）始めていますので、ではどの部分から刊行が出来ていくかということにかなり各部会の先生方にもお願いしなければいけない場合が出てくると思います。

この部会長との会議は、今日始めて持っていただいたわけで、編集委員だけではちょっと出来ないこともありまして、できるだけ各部会からの実際に動いている人たちの話を聴かないといけないということが一番の問題でしたので、今日色々とお聞きして、実際にはどうしたらよいかということを考えていかなければいけないと思います。

考古部会でも、遺跡の数が完全に掌握は出来ていない。あるいは報告書だけでも相当数あるということは承知しております。先ほど中世史料が高野山で出てきたというのはいいですね。県史の時には県外文書等で、結構、難しい問題でして、

気がついた人が報告しないと駄目なものがありますから。考古史料でもかなり中世の経筒なんかでもかなり遠いところに色々あるわけですから、そういうことも含めて、現在、決められた時間で最大限にやるというしか基本的には無いと思います。その辺を一つご理解いただきたいと思います。委員の先生方どうですか。

實形委員、いかがですか。

實形委員　やはり各部長の方々も（課題を）あげられています、ちゃんとした編さん室で進めていく以外はないということだと思います。近世と近現代の合同調査を、個人のお宅でずっと作業することはできないので、史料をお借りして作業するとすると、その膨大な量の古文書を保管しておく場所を確保しなきゃいけなくなってくると思います。今だと、図書館の恵春庵だけになっていますので、とりあえずダンボール数百箱位を置ける場所をお願いしたい。

段々、本格化したら置いておく所が無いと作業が進まなくなってしまいます。それを確保しつつ作業になります。

杉山委員長　近現代部会がいう、旧庁舎にある史料というのは、かなりありますか。

池田近現代部会長

膨大な量があります。例えば真舟とか、岩根、清川とか、そういう木更津市と合併した旧村の行政文書も含まれています。かなりの量がありまして、それは千葉県史料研究財団がこれまで県史の関係で調査をしたことがあります。大体、概要は掴めていますが、県史の場合、どうしても県史の目で見えていますから、地域に密着した史料というものは除いていたようです。結構時間かかると想定しています。だからそれをどこでやるか。あそこは倉庫なので、そこでの作業はできません。それをどこかに運び、目録作成、撮影をする。どこでやれば良いのか、これも検討していただかないといけないことです。

杉山委員長　時間的な問題と言うか、(部会委員の)お勤めの関係もあり、集中してやるわけにもいかない場合があるでしょうから、作業場所の問題も含めて、何点か問題が出てき始めましたので、事務局でも整理していただきたい。また編さん事業が終わった後どうするかまで含めてお願いします。

また、部会委員の年齢の問題は、次の代に引き継げるものは引き継いでいくように何とかしていこうとは思いますが、市史編さんがかなり長期にわたっての計画を立てられていますので、この問題は、それなりの問題を含んでいると思います。

まだ多少時間はありますが、委員の皆様から何かありますか。石和田委員、いかがですか。

石和田委員 河名部会長が言っていた、中世と古代との境の年代をある程度早めに決めていただきたい。

滝川中世部会長

3つ位の隣接部会との話し合いでいいのではないのでしょうか。

杉山委員長 それは、「木更津市史」ではこういう理由で、ここで切ったと説明していけばいいと思います。だから事務局ではなくて、部会間で調整していただくほうがいいんじゃないかと思います。市域の中で大きな事件があれば、それによって違ってくるかとは思いますが。まあ大体、他でも、近世の場合は家康からやるのか、その前から少しやっていくのか、そこら辺も含めて調整するのは如何でしょうか。

委員の皆様、例えば古代と中世の切りはここでいこうという言い方をしていたらいいのではないのでしょうか。それから中世と近世はここで切ろうとやっただけであれば。まあ近代の場合は、と分けやすいかとは思いますが、本当に突っ込んでいくと中々面倒かとは思いますが。ここは木更津県が成立していますから、それを含んで考えていただければと思いますし、如何ですか委員の先生方。各部会同士の話し合いでお任せするという事でよろしいでしょうか。

加藤考古部会長

先ほど古代部会がやった墨書土器につきましては、これは全てのデータは発掘調査報告書ですので、考古部会で取り扱うということでもいいのかなと思います。

杉山委員長 わかりました。それは古代部会との関係かと思えます。

加藤考古部会長

これは決定でよろしいかと思えます。

杉山委員長 それでは、この場で決めさせていただきたいと思えます。金石文はどうしますか。中世のものは中世ということですか。

加藤考古部会長

発掘調査で中世の城から出土したもののデータもありますから、話し合いが必要になると思えます。

杉山委員長 それは、中世なら中世部会が中心になって、考古の資料を利用するという事で、それに近世もありますね。

加藤考古部会長

小高部会委員が考古部会に入っていますので、考古部会で出来るかなと思えます。

杉山委員長 木簡は、どうしますか。木簡なら古代部会の取扱になりますか。

加藤考古部会長

発掘調査データは全て「考古編」になると思います。

杉山委員長 それはどうでしょう。やはり場合によっては調整するという考え方で。

加藤考古部会長

考古的な成果というのは限定的なものですから、それはそれで客観的に分析する。若干ダブるかもしれませんが、それは止むを得ないと思います。

杉山委員長 どうしてもダブってくることは出てくるとは思いますけれども、それは各部会でここはダブっても少しこっちは触れるようにしていただければいいのではないのでしょうか。

加藤考古部会長

それしかないと思います。

杉山委員長 他にありますか。

池田近現代部会長

質問ですが、要望になるかも知れませんが、何年度に刊行するということは色々と意見があったかと思います。刊行は決まってもそこに至るプロセス、作業工程と言いますか、あるいは具体的な作業の進め方というものが、我々部会員の側からするとよくわからない。

特に、近世、近現代の場合は、史料を筆写する作業が必要になってくる。実際にはパソコンにデータ入力することになると思いますが、そうではないと全体の指数と言いますか実数が確定できません。それを一体誰がやるのか。あるいはどういうふうにするのかというようなことが、これまでの編集委員会の中で色々と議論は重ねていたのかもしれませんが、私達にはよくわからなくて。ひよっとすると、これは我々がやるのかなという疑心暗鬼もあったりして。あるいは、もしそうであればやらなければなりません、これがかなり手数のかかる作業です。負荷のかかる作業で、人もある程度確保しなければいけない作業ですから、それをどういうふうを考えていらっしゃるのかということをお聞きしたい。

杉山委員長 この問題は他のことでも、例えば考古史料で実測しなければいけないとか、中世の金石文でもまだ新しいものが出てきたら拓本をとらなければいけないとか、この辺の問題もあると思います。それから、この後の議題に出てきますが、基本的には各部会にお願いしてそこで作業していただいてという形が基本のもので。ただし、それに対する手当ての問題をどういうふうにしようかというのが、最初の時よりも変化していきながら調査委員なり、名称の問題も含めて、実際の作業するのはどうするのかという問題が出ておりますので、問題になったこ

とに対応していくしかないと思っています。

滝川中世部会長

大体、中世の資料というのは、所謂お宝類になります。そうしますと見せていただくためにもお金を払ったり、写真も専門の委託業者に頼まなきゃいけないとか、そういうことで色々なお金がかかるわけです。それをどういうふうに出していただくのか。仲介してくれる方を一緒に連れて行くとか、先ほどの高野山は、仲介してくれる方が行かないと無理だというような話です。そういうのをどうするのか。今の費用では中々対応できない問題があります。

杉山委員長　これは我々も考えなければいけないことですが、最終的には事務局との折衝問題になりますので、確かにそういう問題は出てくると思います。しかし、それは出していただかないと。閲覧だけでも閲覧料かかりますとか、考えないといけないと思いますので、実際に作業されている各部会から問題点として出していただくことが必要だと思います。他にありますか。

小関近世部会長

市史編さん室の話にも係りますが、民俗部会の和田部会長からも出ておりましたが、専門知識のあるメンバー、部会メンバーかどうかは別としても何らかの方が市史編さん室に毎日ではなくてもある程度常駐して、色々な関係者と連絡を取ってくれるような体制があったほうが作業はスムーズにやっていけるのかなど考えておりました。

杉山委員長　現在でも作業する場所は教育委員会にありますけれども、やはりちゃんとした編さん室が必要であるということ、部会のほうから意見が出ているということ、事務局にお願いしたいと思います。

他にありますか。一応、現在の状況を各部会から報告していただきました。およそ30年度の予定についても触れていただきました。いずれ出版計画もどうするのか。これは事務局との折衝にも関係します。ただ事務局も一旦出してあるものをよほどのことではないと変更が出来ないだろうと思いますので、対外的な問題等で、変更していくことになればそれなりの理由が必要になってくると思います。なるべく早い段階で、こういうふうにしていきたいということを各部会から話していただいて、編集委員会でもそれを考えるという形にしていきたいと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

編さん事業の進捗状況についての議題はこれで閉じたいと思いますがよろしいですか。

〈出席者同意〉

杉山委員長　それでは、議題については以上で終わります。次に報告事項があるので、事務局の説明をお願いいたします。

事務局（山口文化課長）

本日は、部会長の皆様から具体的な問題点をあげていただき、事務局としてもなるべく早く編集委員会の中で対応を考えていきたいと思っております。また何か具体的に検討したいことがあれば遠慮なく事務局に申し付けてください。

それでは、報告事項について担当からさせていただきます。

事務局（小高主幹）

それでは、報告させていただきます。はじめに説明いたしましたように、前回の第2回市史編集委員会におきまして、編集部会の組織の見直しということで、編集部会設置要綱の一部改正についてご協議いただきました。

事務局の提案内容について御了承いただきましたので、別紙2のとおり進めていきたい所存でございます。

まず、別紙2に新旧対照表を掲載しておりますが、編集部会に部会長、部会員のほかに新たに調査員を設置することとします。また、この4月から実施できるよう図ってまいりたいところです。

それに関連して、編集部会の方々へ調査協力に対する謝礼と交通費等の費用弁償ということで、報償費等支給基準を定めております。その中に調査員に関する項目を追加します。あわせて編集部会の作業についても調査員について追加します。謝礼につきましては、調査員の方に対して1回の調査で3千円を支給する予定でございます。一回の作業時間は、概ね2時間から3時間の作業として、1日2回まで行っていただくよう考えております。支給基準についても、4月から実施できるよう整備を図ってまいります。

続きまして、報告事項として、今年度から『木更津市史研究』創刊号と、『木更津市史編さん事業公開講座記録集』の発行でございます。『木更津市史研究』につきましては、8名の方が調査研究、研究報告、調査報告をお寄せいただいております。『木更津市史編さん事業公開講座記録集』につきましても、平成26年度から28年度に実施した公開講座の講演内容を掲載して発行する予定でございます。

杉山委員長　いよいよ『市史研究』の創刊号が出るということでございます。また、続けて次々と出していくということで、編集部会の方々にもお願いするようになっていくと思っております。よろしく願います。

報告事項については、以上となります。質問がなければ、本日の議事は以上で終了とします。それでは、議長の職を解かせていただきます。

本日は、ご協力いただき ありがとうございます。

事務局（山口文化課長）

杉山委員長、議事進行ありがとうございました。以上を持ちまして第3回木更津市史編集委員会を終了いたします。なお次回の編集委員会については、日程等調整させていただいたうえでご連絡させていただきます。本日は、ありがとうございました。

平成30年4月2日

議事録署名人 木更津市史編集委員会

委員長 杉山 林継